コシロオビアオシャク　63. 6. 17
30. Gelasma ambigua Butler
ツバメアオシャク　60. 8. 2
31. Jodis dentifascia Warren
オオナミガタアオシャク　60. 6. 16
32. Carige irrorata Butler
ヒロバトガリナミシャク　60. 6. 23
33. Fascellina chromataria Walker
エグリエダシャク　60. 7.23
マドガ科
34. Herdonia margarita Inoue
ギンスジオオマドガ(モリヤママドガ) 60. 7. 9
メイガ科
35. Polythlipta liguidalis Leech
ツマグロシロノメイガ(マダラシロオオノメイガ)
61. 5. 31
36. Sitochrosapalealis Denis & Schiffer müller
ウラグロシロノメイガ　?

あとがき：
十分に他者の採集目録や文献を参考にしていないので、現在の珍しい種とくいちがう所もあると思うが、森氏の御苦労の一端を紹介した。
森は同好者の御質問や御意見を期待するので、お気づきの点は本誌や森　博宅へ御通信下さい。
(文責：岡村)

参考文献：
原色昆虫大図鑑Ⅰ（蝶・蛾）篇：北隆館
原色日本蛾類図鑑上，下.：保育社
日本産蛾類大図鑑Ⅰ，Ⅱ：講談社

筆者：
岡村八郎：〒658 神戸市
(大, 14年生)　Tel, 神戸(078) 851－
森　博：〒651-14 神戸市
(明, 44年生)

タテハチョウ科の習生の変わった越冬幼虫２例

木　村　三　郎

1. 遅くまで葉上にいたゴマダラチョウ

自宅庭に植えてあるエノキで、例年なら11月の中旬には、すべての幼虫が木の下に降りているのが観察されるのに、ほとんどの葉が落葉した1986年11月10日、下枝に２頭の幼虫が、ミスジチョウの越冬幼虫のように葉枝基部に吐糸して葉と枝とをしっかりと結びつけて中央部に静止しているのが観察できた。

その後もずっと見ていたが、霜や氷が張ったにもかかわらず遅くまで樹上に静止していたのが12月12日まで見られたので、気温とともに報告しておきます。

		最低気温 3℃	最高気温21℃
11月１日～５日			
６日～10日	観察日○	2	19
11日～15日	○	2	17
16日～20日	○	2	17
21日～25日	○	2.5	16
26日～30日	○	-0.5	12
12月１日～５日	○	-0.6	13.5
６日～10日	○	-1	13
11日～15日	○	0	13
16日～20日		-1.5	13.5

2. 木のくぼみにいたミスジチョウ

1987年１月４日、蝶友の近藤伸一氏、谷川勝彦氏ら４人で生野方面へゼフ卵とミスジチョウの越冬幼虫の調査に行った時、生野ゴルフ場附近にてカエデの樹上の枯れ葉上で越冬している個体を捜していたところ、木のくぼみにたまった落葉を見ながら、ふと思いついて（ゴマダラチョウであれば、こういう場所にも越冬幼虫が観察できるのだがと言いながら）なにげなく、葉をめくって見ると偶然にも樹皮と落葉を糸でからめ中から、幼虫を見つけることが出来た。附近のカエデも調らべて見ると、もう一例谷川勝彦氏が確認採集された。ミスジチョウについてはこのような事例は報告がないと思われるので、報告しておきます。

調査及び発表についてご協力いただいた諸氏に厚くお礼申し上げます。

(S.03: Saburou Kimura　飾磨郡夢前町　)